

仲間と共に地域農業の魅力を発信し続ける次世代のリーダー



若い農業経営者の部



〔氏名〕 はりも たくろう
針茂 拓郎

〔市町名〕 太良町



1. 経営の概要 (令和6年度)

(1) 労働力構成

区分	年齢	農業従事日数
本人	34	300
雇用(年間)	1人	
雇用(臨時)	延べ 355 人・日/年間	

(2) 作目別栽培面積等

(単位:a、kg/10a、kg)

作目	面積 (育成園含む)	単収	生産量
温州みかん	525	2,000	99,000
不知火	30	2,000	6,000
南津海	5	3,000	1,500
レモン	40	2,000	8,000

2. 農業経営のビジョンと戦略

近年はみかん単価が安定していることから、高品質果実生産を意識し、かつ、連年安定生産を最重要視しており、規模拡大を続ける中でも安定した収益性を維持できる経営体制の確立に努めている。

今後は、周年出荷体系を確立するとともに、年間を通じた雇用を創出することで、法人化も検討しながら、産地の維持発展を目指す。これらの取組により先祖から受け継いだ園地を後世へとつないでいき、100年先も地域と共にある農業を目指す。

以上の長期ビジョンを達成するため、次のような実践を進めている。

- (1) 作業効率の高い園地づくりを進めるため、植栽間隔を広げてスピードスプレーヤーを導入し、省力的かつ安定した防除体系を確立している。
- (2) 堆肥を積極的に活用し土壌の地力を高めることで広い植栽間隔でも単収を維持できるよう努めるなど、持続的な生産基盤の強化に取り組んでいる。
- (3) 労力の平準化と収益の安定化を図るため、極早生・早生・普通・露地中晩柑・施設中晩柑をバランスよく組み合わせ、年間を通して安定した経営を実現している。
- (4) 早生温州では、太良町でいち早く根域制限栽培を導入し、普通温州では、高品質化に加え作業の省力化が可能な隔年交互結実栽培を導入するなど、技術革新による高品質果実の安定生産を目指している。

3. 経営発展に向けた取組状況

- (1) 平成 27 年就農当時、既にカンキツで農業経営を行っていた両親とは別経営で営農開始した。
- (2) 当初は経営面積 4ha 程度であったが、現在は約 6ha まで拡大している。
- (3) 就農当初から、根域制限栽培を導入し、消費者に好まれる高品質な果実生産に取り組んでいる。
- (4) 就農当初から、市場流通の端境期となる 4~5 月に出荷、有利販売を目的に晩生カンキツ「南津海」を導入した。「南津海」は当初、露地栽培での導入を検討したが寒害に遭うリスクがあるため、ハウスを新設した。
- (5) 平成 29 年以降、極早生の中でも良食味の優良系統「ゆら早生」の比率を増加させており、現在では、極早生のうち 50%が「ゆら早生」となっている。
- (6) 改植の際は、労力分散を意識して、極早生・早生・普通のバランスが偏らないよう留意している。
- (7) 平成 28 年に加工用果実としてレモンを導入している。レモンは、園地や倉庫へ直接集荷しに来る業者と取引することで、省力化や流通経路の短縮を図っている。

4. 地域や集落における活動状況等

- (1) 農業経営を開始する以前の平成 22 年度から藤津地区農村青少年クラブ連絡協議会に加入し、令和 2 年度と 4 年度に二度会長を務めている。現在もベテランとしてクラブの運営に尽力するとともに、県連の役員を務めるなど、県全体の若手農業者の技術力向上に貢献し続けている。
- (2) 平成 30 年度に、4H クラブとして仲間とともに様々な組織と連携した地域貢献活動を行ってきた成果をプロジェクト発表し、佐賀県大会で最優秀賞を獲得した。
- (3) 令和元年度~3 年度には青年農業士も務め、地域の若い農業経営者のリーダーとして、自らに続く青年農業者の育成並びに地域振興に貢献した。
- (4) 太良町内のカンキツ経営者等で組織する太良シトラス会にも加入し、地区のベテランから、積極的に技術の吸収を図っている。
- (5) シトラス会の活動では、外部からのコンサルタントを受け、付加価値を高める工夫を取り入れることにより「たらみかん」のブランド力向上にも貢献した。
- (6) 就農以前から JA の高接ぎ組合に加入し、技術研鑽に努めるとともに、地域への優良品種の早期普及に貢献した。

農業振興センターからのコメント

カンキツ専作で 6ha を経営しており、常時雇用がない中でこの大規模面積を維持するために、省力的・効率的な管理作業が行える工夫が随所になされている。

特筆すべきは、太良町の中で最初期に根域制限栽培を導入した点である。針茂氏の取組が成功事例となり、町にも根域制限栽培が拡大している。

また、各種若手農家の組織活動に積極的に参画し、地域リーダーとしての役割を担っている点で、地域への貢献度合いは非常に大きい。

今後は周辺園地を借り受け、周年出荷体系を確立するとともに、年間を通した雇用の創出と法人化を計画しているなど、今後も産地のけん引役として大きな期待がかかる。